

今週（3月6日から3月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、前週から引き続き資金調達ニーズの非常に強い展開となった。週前半の6日から8日までは、ビッドサイドの業態を問わず▲0.01%近辺に出合いが集中する相場となった。9日には大手行からのビッド目線が引き下げられた事で、全体のレート水準が低下した。10日は今積み期最後の週末となったが、一部大手行からの調達が見送られた事で、全体のレート水準は大幅に低下する展開となった。

ターム物は、週前半はショートターム物を中心に▲0.01%近辺での出合いが見られた。しかし週後半になると、今積み期の残り日数も少なくなりオファーが限られる中、ビッドのレート水準が低下した事もあり閑散となった。

日銀当座預金残高は、518兆円台半ばで始まり、各種金融調節の影響により緩やかに増加し、週後半には521兆円程度となった。

また、3月9～10日に開催された日銀金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のGCT/N物は、概ね▲0.10～▲0.08%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2Y440～446回、5Y150～156回、10Y355～369回、20Y175～183回、30Y65～77回、40Y10～15回など、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、7日までは動意なく閑散となったが、8日に実施された6M物の入札結果がやや強めとなった事を受け、その後の6M物はしっかりとした推移となった。9日には3M物の入札が実施され、按分落札利回り▲0.1619%、平均落札利回り▲0.1980%となった。前回債(1142回)が事前予想に比べ強めの結果となった事から、今回債の平均落札利回りはやや低下したが、償還日がNYの祝日にあたる事で応札が減少したと思われ、テールが流れる結果となった。

短国買入オペは、7日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.006%、平均利回較差+0.007%と、無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、10日の発行集中日があり、石油・機械・鉄鋼等の複数業態で大型発行が行われ、週間では僅かに発行超のマーケットとなった(金額ベース)。

市場残高は、週を通して大きな変動はなく、27兆円前後で推移した。

発行レートについては、日銀の適格担保銘柄では概ね浅いプラス圏での決着となった。

CP等買入オペは、8日に事前予定通り4,000億円でオファーされ、按分レート+0.003%、平均レートは+0.013%と、前回比(按分+0.003%・平均+0.015%)で按分は横這い、平均は低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/6 (月)	28,237.78	0.500	135.86	△ 0.011	△ 0.102	5,185,000
3/7 (火)	28,309.16	0.500	136.09	△ 0.011	△ 0.097	5,194,500
3/8 (水)	28,444.19	0.500	137.33	△ 0.012	△ 0.096	5,193,800
3/9 (木)	28,623.15	0.500	137.02	△ 0.017	△ 0.099	5,210,800
3/10 (金)	28,143.97	0.390	135.91	△ 0.029	△ 0.100	5,214,500

来週（3月13日から3月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/13 (月)	1-3月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)				
3/14 (火)		5Y 25,000億円 3/15発行			2月の米消費者物価指数
3/15 (水)	金融政策決定会合議事要旨(1月17・18日分 8:50)				2月の米生産者物価指数 2月の米小売売上高 1月の米企業在庫
3/16 (木)	1月の機械受注統計(内閣府 8:50) 2月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 35,000億円 3/20発行	20Y 12,000億円 3/17発行		2月の米住宅着工件数 ECB定例理事会(金融政策発表)
3/17 (金)	10-12月期の資金循環統計速報(日銀 8:50) 1月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 63,000億円 3/20発行			2月の米鉱工業生産・設備稼働率 3月のミシガン大消費者信頼感指数速報 2月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/13 (月)	600	1,600	2,200	国債買入 国債補完 CP買入	65,000	800 4,000	69,800	72,000	TB3M発行▲63,000償還60,000
3/14 (火)	500	▲2,000	▲1,500				0	▲1,500	源泉税揚げ
3/15 (水)	1,000	▲25,000	▲24,000				0	▲24,000	5Y発行▲25,000 個人向け3・5・10Y発行▲3,200 個人向け3・5Y償還600
3/16 (木)	▲500	5,000	4,500				0	4,500	
3/17 (金)	▲1,500	▲4,000	▲5,500	貸出増加支援	▲37,700		▲37,700	▲43,200	所得税確定申告分 20Y発行▲12,000
週間合計	100	▲24,400	▲24,300	—	27,300	4,800	32,100	7,800	

3/13は日銀予想、3/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場の無担保コールO/N物は、レート水準がやや低下基調ではあるものの、15日までは底堅く推移すると思われる。16日以降は基準比率が一段と上昇し、68.0%となる。再び大手行からの調達ニーズが高まる事が想定され、レート水準は上昇基調が見込まれる。債券レポGC T/N物のレート水準は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続き横這い圏での推移が見込まれる。短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札実施が予定されている。また、14日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、15日、20日の発行集中日が予定されており、市場動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、16日に1月の機械受注統計、2月の貿易統計、海外では、14日に2月の米消費者物価指数、15日に2月の米小売売上高、16日にECB定例理事会、17日に2月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入